

か れ い

嘉例のながれ

江迎小学校 学校だより

平成29年度 第11号

平成29年7月20日（木）発行

文責：校長 立木 昭夫

今日で前期前半の授業が終了しました。いよいよ明日からは夏休みです。42日間の夏休みを有効に使いたいものです。4月からの取組や活動、行事等の反省をしっかりと行い、学習の成果を確認して、どのように夏休みを過ごすのか、考えなければなりません。私が本校校長に赴任し、力を入れてきた活動を中心に振り返ってみたいと思います。

<本校の課題「学力向上」と夏休みの課題>

常日頃から述べていますように、本校の一番の課題は、「学力向上」です。昨年度の実施した標準学力テストや本年度実施された県（5年）、市（4年）の学力テストの結果が、よくないという実態を踏まえたものです。この現状では、学校目標の「夢」は語れず、「元気」も出せず、「心」にゆとりをもつことなどかないません。学校、家庭、地域、そして子供自身が、「学力向上」という課題を心から受け止め、具体的に努力する必要がある状態は、7月の今も変わりません。

夏休み中の子供たちは、国語では漢字、算数では計算を中心に、その他の教科においても、前期前半に学習したことを確実に定着させることを目標に頑張ってもらいたいと思います。保護者の皆様には、課題の確認をしながら、声掛けをよろしくお願いします。

また、夏休みは、長い休みにしかできないことをすることも大切です。続けて毎日観察するもの、大人（家庭や地域）の協力がなければできないものなど、「学力向上」の応用や活用の部分で有効なものがたくさんあります。是非、一緒に取り組んでいただきたいと思います。

<基礎学力向上の手立てとしての丸付け先生>

基礎学力向上の手立ての一つとして、「かがやき算数」の時間に「丸付け先生」の導入を行いました。おかげさまで、現在22名の丸付け先生にご登録いただき、クラス2～4名の丸付け先生を配置できています。15分間、真剣に取り組む時間の実現は子供たちの基礎学力と意欲の向上につながっていると考えています。その一方で個人差が広がってきています。やり終わっているプリントの数に大きな差が出てくるのが現状です。教師が個別指導に当たっていますが、前の学年の既習事項を理解していない子供も多く、教師一人では対応しきれない状況です。「丸付け先生」の他に、「サポート先生」が必要になってきています。



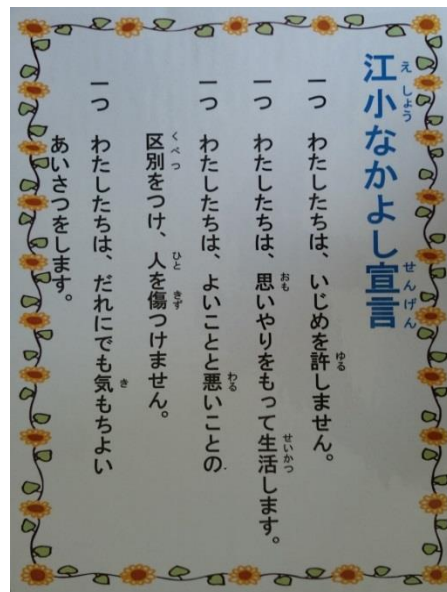
<学習を支える支持的風土のある学級づくり>

学校で、学習ができるというのは、だれもが安心して過ごせる学級（クラス）があるということです。ふざけたり、けんかをしたりして授業を妨害するする子供や先生の話によ

く聞かず勝手に発言し授業を止めてしまう子供がいます、その他の子供たちは、まともに学習することができません。また、「悪いことを注意したら、嫌われる。いいことをしたら、いい子ぶるなどと言われる。一回さそいを断ったら仲間から外される。いっしょにいないければ、こそこそ話で悪口を言われる。特定の人をみんなで仲間外しにする。きたない言葉を使うのが普通になっている。」などの状態があると、安心して学級にいることはできず、ましてや学習することなんてできません。

こんな状況を解消したり、こんな状況にならないようにしたりする手立てとして、①学校生活や学習のルールをしっかりと身につけさせることと、②ソーシャルスキルトレーニング（以下、S S Tと表記）を取り入れ、コミュニケーションを豊かにし、信頼できる友達関係をつくることを実践してきました。まだ、効果が十分出ているという実感はもっていませんが、今後も進めていく予定です。担任が実施できるS S Tの教材を増やしたり、実施する時間を確保したりすることが今後の課題です。

また、本校には、「江小なかよし宣言」というものがあり、先日のなかよし集会で、全校児童そろって確認しました。この4つの項目を守ることこそ、支持的風土のある学級づくり、学校づくりにつながるものだと思います。



＜開かれた学校（学校の見える化）の実現＞

学校をよくするためには、学校のよいところを見ていただかなければならないし、反対に、改善すべきところも見ていただかなければなりません。授業参観や行事などのように構えた時ではなく、普段の様子を見てもらいたいと思っています。子どもたちには、「教室に人が入ってきても、学習中だったら、あいさつはいらない。」と指導しています。授業に集中している。そんなクラスが素晴らしいクラスです。丸付け先生が「かがやき算数」の前後に、普段の子供たちの様子を見ていただけることは、たいへん有り難く思っています。

ゲストティーチャーや授業の支援者として、保護者や地域の方に参加してもらうことも進めています。例えば、家庭科の裁縫学習支援や生活科の町探検の見守りなどです。たいへん助かっていると同時に、普段の学習を見ていただくよい機会ととらえています。さらにいろんな場面での支援者探しています。いよいよ来年度から移行期間が始まる「英語の授業」の支援者、特別の教科として新たに位置づけられる「道徳の授業」のゲストティーチャー等々です。

前期前半の最後に学校だよりで、長々と思いを書かせていただきましたが、4月から皆様にご協力いただいて取り組んできたことが、少しずつものになってきていることを感じています。

明日から、42日間の長い休みに入ります。子供たちが、家庭や地域にいる時間は長くなります。家庭の力、地域の力が必要な42日間です。子供たちにとっては、4月から学校で学んだことを実践するよい機会です。9月には、家庭や地域で鍛えられて、一層たくましくさを増して登校してくる子供たちの姿を期待しています。